

マーシャル諸島で交流

県内初の外務省交流事業

今月と来月の二回に分けて、マーシャル諸島を訪ねた生徒たちの報告をご紹介します。

(内容は抜粋です)

外務省が実施している「日本・太平洋島しょ国若人交流計画」の一環として、町からマーシャル諸島に派遣された町内の高校生六人が元気に帰国し、八月六日午後、西原町役場を訪ね、翁長町長に帰国報告をしました。

同交流事業は全国で八回目で、県内自治体での実施は、西原町が初めてになります。

六人は七月二十五日から八月二日まで二週間、マーシャル諸島で文化、



派遣された生徒たちと関係者

習慣を学び地元の高校生と交流しました。

派遣された生徒達は「たくさんの人たちと出会い、友情の絆を深めることができた」(新川さつきさん)、「たくさん文化を学んだ」(渡嘉敷大さん)。

日本も援助に力を入れているけど、そのやり方も工夫が必要ではないかという考えさせられた。大学で国際関係を学びたいのも夢になった。(與那根野恵さん) など感想を報告しました。

また、六人はピキニ市から送られた水爆についての資料と地元の人々が作った竹製の地図のプレゼントを翁長町長に手渡しました。

報告を受けた翁長町長は「現地につけ込んで、向こうの文化を吸収し、沖縄の文化もじっくり伝えてくれたものと思う。この体験を地域の子どもや学校の友人たちに伝えてほしい。国際交流は各人が一歩一歩努力して積み上げることが大切だということを感じ取ってくれたのならうれしい」と感想を述べました。

昭和三十九年附属高校二年生
松田 恵理子さん

私は今回、マーシャルの伝統的な音楽や踊りを調べてみました。

歌や踊りをとおしてマーシャルの人々の元気で明るい理由がわかった気がするし、沖縄との共通点も見つけられた気がします。

沖縄の人と同じようにマーシャルの人々も、うれしい時、楽しい時、歌ったり踊ったりします。

「歌や踊りは、どこの世界に行っても、とても大切なもので、共有することができるといいなあ」と思いました。

マーシャルの人々が、どんな時でも笑顔でいられるのは、音楽や踊りを愛し、みんなで楽しむことができるからではないでしょうか。

小さいけれど大きな心を持った島、沖縄と同じように多くの問題を抱えているにも関わらず、強く美しいこの国



マーシャルの伝統衣装を身につけて

開邦高校二年生

中山 幸平さん

マーシャルの自然は豊かでした。しかし、一方でゴミ問題も大きくなりました。ゴミ処理場近くでは大変な悪臭と水質汚染がありました。学校教育で、環境意識を定着させるのが課題だそう。沖縄も海が汚れているので共に考える必要があります。

ところで僕がとても驚いたことは、マーシャルの人のつながりです。親族のつながりが強く、どんなに生活が苦しくてもみんなで助け合う姿(ユイマール)があります。

これは沖縄から消えつつあるものだと思います。僕はこの交流計画で人々の自然な生き方を実感しました。人が集まれば会話が生まれ、笑いは絶えませんが、僕は近所や地域のつながりに重要性をおきたいと考えるようになりました。マーシャルの人々は、人の和がしっかりとっているから異国から来た僕たちをたくす受け入れることができるのだと思います。身近な和が地域の和となり、地域の和が国の和と

なり、国の和が世界の和と和なのです。そう考えると国際交流など生活の延長線であって、あまり難しくないのでと思います。

近年、グローバルということばがよく使われます。しかし、世界的な規模の交流が重要視されて、小規模の交流がおろそかになってはいないでしょうか。そう考えると僕は今の生活が恥ずかしくありません。

今回の交流でマーシャルの人々の生活を見て、沖縄の残さなければならぬ宝を感じることができて感謝しています。

に更に興味を持ち、調べてみたくなります。



マーシャル関係者会議にて

今回、教育環境を勉強していること自体、日本とマーシャルがならん変わらないことに驚き、以前偏見を持っていた自分が恥ずかしくなりました。また、教育による日本とマーシャルのつながりにも気づくことができました。

僕はマーシャルの高校生がどんな教育を受けているのか調べてみました。マーシャルの教育の大きな問題は教師と教室の不足だそうです。マーシャルはアメリカの教科書を使っていますが、肝心の英語の学力が授業時間の不足もあり、まだ低く、大きな壁となっています。

開邦高校二年生

與那根 正人さん

僕はマーシャルの高校生がどんな教育を受けているのか調べてみました。マーシャルの教育の大きな問題は教師と教室の不足だそうです。

マーシャルはアメリカの教科書を使っていますが、肝心の英語の学力が授業時間の不足もあり、まだ低く、大きな壁となっています。

そんな数珠繋ぎのようなサイクルにストンプをかけているのが、なんと日本です。日本はマーシャルにボランティアで人材を派遣しています。

僕は今まで政府に対して、自国の経済も危ないのに、なぜ発展途上国にお金をたくさん寄付しているのだろう、いつも疑問に思っていました。でも、現地での大切さを生で感じ、これからもこの活動を続けてほしいと親身に思いました。

今回、教育環境を勉強していること自体、日本とマーシャルがならん変わらないことに驚き、以前偏見を持っていた自分が恥ずかしくなりました。また、教育による日本とマーシャルのつながりにも気づくことができました。

僕はマーシャルの高校生がどんな教育を受けているのか調べてみました。マーシャルの教育の大きな問題は教師と教室の不足だそうです。



青年海外協力隊員との夕食会